

2021年3月16日（火曜）

全労金2021春季生活闘争ニュース・第32号

【全労金2021春季生活闘争統一スローガン】
今こそ全国の仲間と思いをひとつに！心は密に団結を！

《合意速報No. 16》

九州労組が金庫との団体交渉で、「基本合意」を表明しました！

九州労組は、3月16日16時40分から、金庫と「団体交渉」を開催し、基本合意を表明しました。要求と回答は以下の通りです。

	九州労組（金庫）		九州労組（金庫）	
	要 求		回 答	
	正職員	契約職員	正職員	契約職員
年間一時金	4.3	3.0	4.2	2.5
昨年実績	4.2	2.5	4.2	2.5

団体交渉において、金庫からは「2020年度は、新型コロナウイルス感染症が感染拡大している中で始まり、4月には1回目の緊急事態宣言が発令された。そのような中、本部でどうしていくか、役員が各県に分散して対応したが、営業店中心に交代勤務を実施し、渉外活動の自粛や人数が少ない中で普段携わらない業務を行いながら乗り越えてもらった。また、2回目の緊急事態宣言については、会員の組織事情にあわせて渉外活動をしてもらっている状況にある。組合員・職員の皆さんの頑張りが数字となって表れているため、感謝を申し上げる。春季生活闘争に関して、2020年度の目標数値に対して、貸出金の中でも無担保・カードローンが未達となっている。この間の計数計画では、各県毎にばらつきがあり、2016年度に初めて全県で達成し2019年度まで続いたが、2020年度になって未達となる見込みである。金庫は、預貸和の割に収益が少ない状況や自己資本比率の低下も著しい。労働組合からは、一時金のみ要求ではあったが、それでも先を見通すと厳しい。金庫の実態を組合員1人ひとりに伝えていく必要がある。現状をしっかりと伝え、前を向いて進めていきたい。今後も、人口減少や新型コロナウイルス感染症の影響、マイナス金利政策も継続していく見通しであるが、労使でタッグを組み進めていきたい」等の見解が表明されました。

寺園闘争委員長は、「今春季生活闘争は、新型コロナウイルス感染症の影響下での闘

争であったため、『生命』と『健康』を優先した上で、すべての組合員の働きがいの喚起やモチベーションの維持・向上を意識し、厳選した要求を掲げた。要求に対する回答については、満額回答とはならなかったものの、この1年間、感染防止に取り組むとともに交代勤務を実施する等、働き方の変化に柔軟に対応しながら、会員・労働者の負託に応える観点で奮闘してきたすべての組合員・職員への思いは労使共通であること、また、第7期中期経営計画の具現化を含め、経営課題について協議をする機会を増やすため、定例的に『経営協議会』を開催していくことを確認できたことから、妥結収拾を判断した。労使はこの間、『同一価値労働同一賃金』を実現する観点で、旧準職員・パートナー職員の『雇用形態の統一』や『再雇用制度の改定』に取り組んできた。これらの取り組みは、全国労金においても特に先鋭的であり、『公正な処遇』を掲げる労働組合としても、追求してきた課題である。今後は、残された課題の解消に向けて、労使で様々な観点で検証を重ね協議を進める必要があると認識するとともに、『組織風土改革』を通じて、すべての職員が誇りや働きがいを喚起し、安心して働き続けることのできる環境整備を実現していく考えである。九州労働金庫で働くすべての職員が誇りと働きがいをもち、労働金庫運動に邁進できるよう、様々な機会や場面を通じて、金庫からのメッセージを発信していただくことを求めたい」等を表明しました。

単組は、①今年度示すことのできる精一杯の水準であることを確認したこと、②労使で経営課題等を確認する場として『経営協議会』の定例開催を確認できたと、③この1年間、感染防止に取り組むとともに交代勤務を実施する等、働き方の変化に柔軟に対応しながら、会員・労働者の負託に応える観点で奮闘してきたすべての組合員・職員への思いは労使共通であること、等から基本合意を表明しました。

*合意単組（11単組／3月16日●時●分現在）

近畿(金庫)・沖縄・長野・東北(金庫)・東北(関連)・北海道・北陸・東海(金庫)
東海(関連)・四国(金庫)・新潟・近畿(関連)・四国(関連)・中国(金庫)
中国(関連)・九州(金庫)

以 上